

(ロ) 列車進行中ニ於テ痘瘡ノ疑アル患者發生セシ時

鐵道局員ニ對スル豫防規則

- 第一條 列車進行中ニ於テ旅客ニ烈キ病症ノ發生シタル時ニハ給仕ハ直チニ之ヲ車掌ニ報告セサルヘカラス
- 第二條 給仕ハ常ニ患者ノ容態ニ注意シ可成他ノ旅客ニ接觸セサル程注意スヘシ
- 第三條 亦通規則ノ除外例ヲ以テ別ニ患者ノ旅行ニ停止ヲ命セサル限リハ尙ホ旅行ヲ繼續スルコトヲ得然レトモ患者ノ病症ヲ確定センカキメ醫師ノ來診ヲ乞フヘシ其際醫師ハ患者ノ旅行ニ妨害ヲ加ヘサル程注意シテ診察セサルヘカラス
- 患者若シ一定ノ引渡驛ニ下車セントシテ或ハ病症ノ如何ニ依リ旅行ヲ繼續スルコト能ハサル時ニハ車掌ハ途中ノ驛ヲ通過スル際豫メ其ノ由チ驛員ニ告クヘシ該驛員ハ直チニ之ヲ引渡驛ニ電話ヲ以テ報知セサルヘカラス斯ノ如クモ引渡驛ニ到着シタル時患者ノ引受ニ關スル準備已ニ整頓セルカ故ニ病院事務所警察官廳及ヒ衛生官廳ノ煩勞ヲ省クコトアルヘシ
- 患者若シ引渡驛ニ到着スルヲ俟タズシテ途中ノ驛ニ下車セント欲セハ之ヲ許可スルコトアルヘシ其ノ時ニハ車掌ハ直ニ之ヲ下車驛ノ驛員ニ報知スヘシ患者若シ醫師ノ來診スルマテ隔離セラルヘキ下車驛ニ留マルコトヲ望マサルハ驛員ハ患者ノ住居姓名宿舍及ヒ患者ノ容態等ヲ詳細ニ記載シ直チニ之ヲ近處ノ警察官廳ニ報告セサルヘカラス
- 第四條 列車進行中ニ於テ旅客ニ稍キ病症ヲ發生シタル時ニハ室内ノ乘客ヲ悉ク他ノ空室ニ隔離スヘシ其際患者ヲ看護セント欲スル者ハ患者ト同室ニ留マルコトヲ許可スヘシ
- 第五條 驛員モ患者ニ接觸シタル時ニハ注意シテ消毒セサルヘカラス旅客若シ患者ニ接觸シタル時ニモ亦同様ニ消毒ヲ行フヘキモノトス

(第五條形) 毎週帝國衛生院ヘ送附スヘシ

地名(所轄行政区モ亦記載スヘシ)	(一)
人口數(最近ノ人口數)	(二)
發生シタル新患者數	(三)
發病前十四日頃患者ノ他地ヘ旅行シタルコト或ハ已ニ歸郷ノ際病氣シタル事等ニ就キ	(四)
死亡者ノ數	(五)
注 (報告地ニ於テ發病シタル月日及ヒ第四欄ニ記載シタル人員ノ旅行セシ地方) (新患者及ヒ死亡者ノ種痘ノ狀態何年前一回又ハ數回種痘善感不善感)	(六)

(第六條形) 痘瘡患者及ヒ該病死者ノ統計表

- 寺區、
- 行政区、
- 患者及ヒ死亡者ノ住所(町番號)、
- (一) 患者ノ姓名(死亡者)、
- 男女ノ別
- 男、
- 女、
- (三) 年齢 何年何月何日生レ(若シ生年月日不明者ハ唯年齢ノミ記載スヘシ)

(イ)

- (四) 山産地、
- 行政区(縣)、
- 現籍地、
- 主ナル職業ノ記載、
- 主ナル職業ノ狀態(例ヘハ單獨、共同等)、
- 職業地、
- 旅行ニ就キテノ報告
- (六) 旅行シタル時期、
- 出發地、
- 發病期、
- 始メテ醫師ノ診断ヲ受ケタル月日
- 入院月日、
- 種痘ノ狀態
- (八) 種痘ノ結果ハ佳良ナリシヤ、
- 期時、
- (イ) 種痘瘡著明ナルモノアリヤ、
- (ロ) 種痘ノ結果ハ不良ナリシヤ、
- 山、
- 結果佳良ナリシヤ、
- メシト其ノ理由、
- 時期、
- 痘瘡ハ著明ナリヤ、
- 病痘ノ經過及ヒ其ノ持續
- 診断 散在性ナルカ、

- 出血性ナリヤ、
- 重症ナリヤ、
- 病症ハ幾日間持續セシヤ、
- 繼發病アリヤ、
- 死亡者 何日ナリヤ、
- (居宅或ハ病院ニ於テカ)、
- (十) 傳染ノ證據アリヤ、
- 其ノ理由ハ如何、
- 年 月 日 住 所
- 記名捺印(検査醫)

上記ノ表ニ書き入レル時ノ注意

- 上記ノ間ニ對スル答ハ點線ノ側ニ書き入レルヘシ居所ニ關シテハ大都會ニ於テハ遊方ノ警察署之ヲ指示スルカ故ニ住所ハ可成詳細ニ記載スヘシ(前ノ家、後ノ家、階層、穴蔵)
- (五) ノ第一項―單獨(職ヲ有セサル妻、子等)ニ職業ヲ營ム時ニハ戶主ノ職業ヲ記載セヨ
- (五) ノ第三項―職業地トハ患者カ家外乃チ會社職工場等(何會社例ヘハ製紙會社―及ヒ其ノ處在地)ニ勤務セシコトニ就キテ記載スヘシ
- 通學セシコトアリヤ及ヒ其ノ校名
- (七) ノ第一項―發病期ヲ確定センニハ最初起リタル寒戰ニ依ルヘシ若シ寒戰起ラザリシ場合ニハ症候ノ發現シタル日ニ依ルヘキモノトス
- (八) ―種痘ノ狀態ニ就キ終始醫師ノ觀察シタル時ハ確實ナントモ然ラサル場合ニ於テハ患者及ヒ其ノ家族ノ答ニ依ルカ若クハ官吏ノ證明(種痘證書、二種證書、種痘表録)ニ依ラサルヘカラス

一 「公衆衛生法」中ノ種痘ノ部
(一九〇二年二月十五日附
法)

種 痘

第六條 種痘ハ強制的ニシテ、一歳、十一歳、二十一歳ニ之ヲ行フ
兩親若クハ保護者ハ種痘實施ノ義務者トス
本條ノ規定ヲ實施スルニ必要ナル細則ハ醫學士院及中央衛生會議ノ合意ヲ
經テ大統領令ヲ以テ之ヲ定ム

二 種痘施行規則 (一九〇三年七月二十七日
法 統 領)

(種痘及再種痘)

第一條 醫學士院ハ種痘ニ關シテノ事項ヲ司ル
一、優良ナル原苗ノ貯蔵
二、痘苗製造及種痘ノ進歩改革
三、痘苗ヲ製造シ若クハ之ヲ頒布スル營造物ノ監督ニ必要ナル科學的試驗
醫學士院ハ衛生、勞働、社會大臣ヨリ送付ヲ受ケタル書類ニ基キ毎年同大
臣ニ報告書ヲ提出スヘシ、該報告書ニハ種痘實施ノ狀況及其ノ結果ヲ述ヘ且
各縣遊殊ニ人口二萬以上ノ都市ニ於テ實施サレタル初種及再種ノ數ヲ計示ス
ルモノトス
第二條 各府縣ニ於テハ地方長官ハ千九百二年二月十五日附法律第二十條ノ規
定ニ基キ縣會ニ依リテ組織セラレタル種痘勤務ニ從事スル醫師、産婆及其ノ
他ノ吏員ヲ任命スヘシ

第三條 衛生大臣ハ省令ヲ以テ醫學士院及中央衛生會議ノ合意ヲ得テ無料種
痘ヲ擔任スル醫師ノ職責ヲ規定シ且痘苗ノ頒布ニ從事スル營造物ニ必要ナル
衛生法、痘苗ノ無菌性及其ノ效力ヲ確ムルニ必要ナル試驗法ヲ規定スヘシ
縣廳若クハ郡役所ニ届出シタルニアラサレハ痘苗ノ製造若クハ其ノ頒布ニ從事
スル營造物ヲ開設スルコトヲ得ス
此際此届出ニ對スル認可狀ヲ交付セラルヘシ

第四條 市町村ニ於テハ無料種痘及檢驗ニ關スル告示ヲ爲スヘシ此告示中ニハ
其ノ場所、月日、兩親若クハ保護者ノ義務並罰則ヲ揭示スルモノトス
兩親若クハ保護者ハ小兒ヲ種痘所ニ送リテ種痘ヲ受ケシメ、檢驗日ニ其ノ成
績ノ檢驗ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ
但シ種痘ヲ行ヒタル醫師若クハ産婆ノ發行シタル種痘月日及其ノ成績ヲ記入
セル證明書ヲ市町村長ニ提出シテ此義務ニ代フルモ差支ナシ

第五條 一地方ニ於テ痘瘡以外ノ傳染病流行シ若クハ流行ノ虞アルトキハ縣令
ヲ以テ此地區ノ住民ノ種痘ヲ延期ス

第六條 市町村ハ左ノ様式ニ施リ強制的初種若クハ再種ヲ受ケシムヘキ人ノ名
簿ヲ作製スヘシ
一、初種痘ニ對スル名簿ニハ左ノ各號ニ該當スル者ヲ掲載ス
A 種痘當日ニ於テ生後三ヶ月以上一年未滿ニ達シ當該市町村ニ於テ生レ
且戸籍簿ニ登錄サレタル小兒ノ全部
B 同年齡ノ兒童ニシテ他地方ニ於テ出生シ當該市町村ニ居住スルモノ
C 以上ノ年齡ヲ超過スル兒童ニシテ何等カノ原因ニ依リ以前種痘シ能ハ
サリシモノ

D 以前既ニ種痘ヲ行ヒシモ毒感セザリシ爲向一回種痘ヲ施行スヘキモノ

二、第一回再種痘ニ對スル名簿ニハ戸籍簿及公私ノ學校長ヨリノ報告ニ基キ
在學兒童ニシテ種痘ノ當日ニ於テ十一歳ニ達シタル總テノ兒童並年齢ノ如
何ニ拘ラス初種痘若クハ第一回再種痘ヲ受ケザリシ兒童ヲ掲載ス
自宅ニ於テ教育ヲ受ケル兒童ニシテ前項ト同様ノ條件ニアル者ハ其ノ兩親
若クハ保護者ヨリ之ヲ届出シ且之ヲ此名簿中ニ掲載スヘシ

三、第二回再種痘ニ對スル名簿ニハ當該市町村ニ居住スル二十一歳ノ全住民
ヲ掲載ス
第七條 種痘醫ハ第四條ニ規定セル種痘場ニ於テ種痘サレタルモノト、兩親若
クハ其ノ保護者カ同條ニ規定セル證明書ヲ提出シタルモノトヲ論セス此表ノ
各人名簿ニ種痘日及其ノ成績ヲ記入スヘシ

第八條 種痘醫カ無料種痘場ニ來場シタル兒童ニシテ其ノ健康狀態カ種痘スル
ニ適セスト認メタル場合ニハ本表ノ當該名ノ欄ニ種痘不可能ナル旨ヲ記載ス
ヘシ
主治醫カ署名セル證明書ヲ以テ種痘不可能ナル旨ヲ届出タル者アルトキハ當
該人名簿ニ前掲同様ノ記載ヲ爲スヘシ

第九條 不潔感ノ場合ニハ第二回、要スレハ第三回ノ種痘ヲ行フヲ要ス此等ノ
種痘ハ成ルヘク早ク行フヘク遅クトモ次ノ種痘日迄ニ之ヲ行フヘシ
此種痘日ノ爲ニ附表ヲ調製シ種痘ノ反復ヲ要スルモノ並第八條ニ規定セル原
因ニ依リ種痘ヲ延期シタルモノノ全人名簿ヲ記入スヘシ

種痘ノ善感ヲ確證シ若クハ三回種痘ヲ反復シタルモノ尙不潔感ナルトキハ種痘
醫ハ各種痘見毎ニ其ノ兩親若クハ保護者ニ法律義務ヲ果シタル證明ヲ與フヘ
シ

第四條ニ規定セル證明書ヲ提出シタルモノニモ亦同一ノ證明書ヲ交付ス
第十條 佛國ニ居住セントスル外國人ハ本人及其ノ兒童ニ對シ其ノ居住地ニ於

テ本令ノ諸規定ヲ適用ス

第十一條 當該市町村ニ於ケル最後ノ檢驗了リタルニモ拘ラス第四條ニ規定ス
ル義務ヲ果ササル兩親若クハ保護者アルトキハ市町村長ハ各人毎ニ通知狀ヲ
發シ其ノ兒童カ初種若クハ再種痘ヲ受ケサルヘカラサル年ノ終ル迄ニ同條ニ
規定セル證明書ヲ提出セサルヘカラサル旨ヲ知ラシムヘシ
此期ヲ過スモ尙證明書ヲ提出セサルモノニ對シテハ市町村長若ハ警察署長ハ
一九〇二年二月十五日附法律第六條ノ規定ニ違反セル旨ノ副書ヲ調製シ直ニ
道警署裁判所檢察官係ニ送付スヘシ
第十二條 種痘終ラハ市町村長ハ當該市町村ノ種痘人名簿ノ寫ヲ地方長官及郡
長ニ送付スヘシ

三 公種痘從事員服務規定 (一九〇四年三月
二十八日附省令)

第一條 公種痘ニハ獸痘苗ノミヲ用フヘシ、一九〇三年七月二十七日附大統
領令第三條第一項ニ規定セル條件ヲ充タセル製苗所ヨリ出タル痘苗ニアラサ
レハ使用スヘカラス

第二條 種痘勤務ハ直接縣衛生會議ノ監督ヲ受ケ醫學士院ハ更ニ其上ノ監督
ヲ爲スヘシ
縣衛生會議ノ監督ハ同會議ノ推選ニ基キ地方長官ノ任命シタル三人ノ委員ヨ
リ成ル特別委員會ニ依リテ之ヲ行フ、此委員會ハ細菌學前技能ヲ有スル二名
ノ醫師及一名ノ獸醫ヨリ成リ地方官肥官長又ハ一縣參事會員之ヲ監督ス
此委員會ハ毎年地方長官ニ勤務狀況報告書ヲ提出スヘシ

第三條 痘苗ハ製造後成ルヘク日ヲ經サルモノヲ用フヘシ週クモ採取後四十日
以内ノモノヲ用フヘカラス
前回ノ種痘ノ閉封シタル管ヨリ出シタル痘苗ノ殘餘ハ決シテ用フヘカラス
之レカ爲メ種痘從事員ハ各手續ヲ携帶シ、用ヒタル痘苗ノ番號ノ外左ノ事項

ナ肥賦シ控クヘシ

痘苗受領月日

製造所名

該製造所ノ送狀番號

受取リタル批

該痘苗ヲ用ヒタル場所及日

種痘人員

種痘施行並ニ其結果ヨリ得タル感想

第四條 種痘場ハ種痘場トシテ清潔ニシテ充分ナル廣サヲ有シ採光換氣可良、適當ニ保溫シ常ニ健康者ニ非ラザルハ出入セサル場所ヲ要求スヘシ此種痘場ハ決シテ混雜ヲ來サシムヘカラス

第五條 種痘場ハ種痘實施ニ先テ被種痘兒ヲ檢査ス且ツ要スレバ其兩親ニ當時ノ健康狀態ヲ質問スヘシ

榮榮若クハ體質ヲ害スル恐アル慢性病ニ罹レル兒童ハ種痘場ニ於テ特別ノ事

第三節 英國種痘令ノ要點

一八五三年發布種痘令

初生兒ハ生後三ヶ月以内ニ種痘官吏又ハ開業醫師ニ依リテ種痘ヲ受クヘシ、此法令ニ違ハサル父母ハ罰金二〇先リ以テ處分セラレヘシ

一八六七年改正種痘令

種痘ヲ受ケサル兒ニ對シ、種痘ノ施行ヲ忌避スル兩親ハ、該兒カ滿十四歳ニ達スルマテ毎年罰金刑ヲ科セラレヘシ

一八九八年改正種痘令

(1) 初生兒ノ種痘ヲ受クヘキ期間、生後三ヶ月以内ヲ、六ヶ月以内ニ延長シ

情アリト認メタル場合ノ外初種再種共ニ一定期間延期スヘシ
第六條 接種ノ方法ハ種痘場ノ任意トス但シ其方法ノ如何ヲ問ハズ種痘ハ一種ノ外科的手術ニシテ創傷感染ヲ防止スルニ必要ナル總テノ法則ヲ嚴守セサルヘカラサルコトヲ忘ルヘカラス

第七條 檢診ハ週クトモ接種後第七日ニ於テ行フヘシ

第八條 通常認メサル如キ著シキ不結果ヲ確認シタルトキ若クハ偶發合併症ヲ生シタルトキハ種痘従事員ハ直ニ之ヲ所屬地方長官及製造所ニ通知スヘシ而シテ前者ハ之レヲ縣衛生評議會ノ特別委員會ニ附議ス

第九條 一九〇三年七月二十七日附大統領令並ニ本省令ニ依リ規定サレタル條ノ外、公種痘従事員ハ醫學士院並ニ中央衛生會議ニ依リ可決セラレタル特別ノ訓令ヲ遵守スルノ義務ヲ有ス

此訓令ハ政府ヨリ各施術者ニ漏レナク通達ス

第十條 救濟衛生局長タル國務院議員(Counselor in Charge)ハ本規定ノ執行ニ就キテ責ヲ負フモノトス

タルコト、種痘官吏ハ父母ノ要求ニ依リ、其ノ家庭ヲ訪問シテ、初生兒ニ種痘ヲ行フノ義務アルコト

(2) 種痘官吏ハ兒カ四ヶ月ノ終ニ於テ、尙種痘ヲ受ケサルトキハ、其ノ父母ニ警告ヲ發シ、二十四時間ノ猶豫ヲ與ヘ、種痘ヲ受ケシムヘク出頭セシムルコト

(3) 警察官吏ニシテ其ノ兒ノ家庭カ非衛生的ナルカ又ハ防疫上ノ必要ヲ認メタルトキハ種痘ヲ延期セシムルコトヲ得、但シ此際ハ直ニ衛生官ニ報告スルコト

一九〇七年改正種痘令

一八九八年發布法令ニ依リ、種痘免除ノ申告ハ、單ニ警察署長、判事又ハ執行權ヲ有スル官吏ノ面前ニ於テ行ハルコトナリ、官吏ノ理解ヲ必要トセサルコトナリタリ

【各國法令ノ要點摘錄】

一、種痘強制任意ノ別

獨逸佛蘭西ハ強制ニシテ、

英國ハ法令ニハ強制セルモ、父母ノ申告ニ依リ免除サレ、亞米利加合衆國ハ各州區々ニシテ、種痘ヲ強制セルモノ三十一州、法令ヲ有スルモ強制セサルモノ一州アリ。

二、種痘ノ回数

獨逸ハ三ヶ月以上滿一歳以下ノ嬰兒及滿十二歳ノ二期、

佛蘭西ハ一歳十歳、二十一歳ノ三期トシ、

兩國トモ不善感ナルトキハ三回ヲ反復ス。

英國ノ法令ハ六ヶ月以内、但申告ニ依リ四歳マテ猶豫ス。

三、種痘施行者

佛蘭西ハ市町ニ於テ公種痘ヲ行ヒ、又開業醫師又ハ產婆ニ私種痘ヲ許可ス。

獨逸モ種痘場ヲ特定セルモ、一般開業醫師ニモ之ヲ許シ、醫師ニアラサルモノノ種痘ハ嚴罰ノ規定アリ。

四、切り方

獨逸

初種痘兒ニハ

双腕ニ一仙迷ヲ超エサル三乃至五箇所ノ淺キ刺衝。

再種痘兒ニハ

一膊ニ五乃至八ヶ所ノ淺キ切截又ハ刺衝。

佛蘭西

種痘醫ノ任意ナリ。

五、禁忌

獨逸

(1) 三ヶ月未滿ノ小兒。

(2) 栄養障害。

(3) 重症疾患。

佛蘭西

栄養及體質ヲ害スル恐アル慢性病。

六、検診

獨逸

種痘後第六乃至八日。

佛蘭西 第七日。

七、善感判定

獨逸

初種 痘疱一箇以上適正ニ發育シタルモノ。

再種 接種部ニ小結節又ハ水泡ヲ形成シタルモノ。

八、不善感ナル場合ノ取扱

獨逸ハ次年内ニ、又不善感ナルトキハ更ニ次年内ニ都合三回反復。

第三回目ニ於テハ種痘醫ニ受クヘキ様命スルコトヲ得。

九、種痘ノ施行

獨逸ニ於テハ、種痘醫カ場所時日ヲ告示ス。

佛蘭西ハ、市町村カ場所時日ヲ告示ス。

十、名簿ノ調製及整理、證書ノ交付

獨逸 名簿ノ調製ハ管轄官廳、整理及完否ノ證書交付ハ種痘醫。

佛蘭西 名簿ノ調製ハ市町村、整理及完否ノ證書ハ種痘醫。

痘瘡豫防上必要ナル注意並法令改正意見

痘瘡豫防上、次ノ注意並法令ノ改正ヲ行フヲ要スベシ。

(甲) 海外ヨリノ病毒ノ輸入ヲ防遏スル爲ニ行フヘキ方法

- 一、我國內地ニ渡來スル支那人、朝鮮人ニハ檢疫ノ際特ニ注意ヲ爲スコト、能フバクンバ上海、大連、釜山等ニ於テ乘船以前種痘ヲ受ケシムルコト。
- 二、大連、上海等ヨリ輸入スル棉花、殊ニ古繩、襪襪ハ規定ニ依リ嚴重ナル消毒ヲ行ハシムルコト。
- 三、朝鮮、露領、樺太等へ出稼スル漁夫ハ出發前必ズ種痘ヲ受ケシムルコト。
- 四、支那、滿洲、朝鮮方面ニ駐屯スル軍人、軍屬ハ歸來前種痘ヲ勵行シ、又携帶品ハ嚴重ナル消毒ヲ行ハシムルコト。
- 五、上海、滿鮮方面ニ旅行スルモノニハ必然種痘ヲ受クル様觀ムルコト。

(乙) 國內ノ傳播ヲ防止スル爲ニ行フヘキ方法

- 一、患者ノ送院、患家ノ消毒ヲ行フ際特ニ塵埃ヲ飛散セザル様注意スルコト、例へバ病毒ヲ防止スル爲患者ノ衣服、蒲團等ハ勿論、病室ヲ相當消毒シタル後送院ヲ開始スル等ノ方法ヲ講ズルコト。
- 二、送院途中病毒ヲ飛散セシメザル様方法ヲ講ズルコト。
- 三、痘瘡患者ヲ收容スル病院ハ成ルベク「コンクリート」建等、空隙ノ少キ建造物ヲ用フルコト。
- 四、痘瘡患者ヲ收容シタル病室ハ常ニ窓ヲ閉ヂ(二重硝子戸トス)病室内ニハ濕氣ヲ多クシテ落屑ノ飛散ヲ

文 献

- Amako: Arch. f. Schiff- u. Tropenhygiene, Bd. 13, 1909.
- Arndt: Studien zur Immunität u. Morphologie bei Vaccine. Zentralbl. f. Bakt., Abt. I. Orig. Bd. 47, 1908.
- Béclère, Chambon, Ménard u. Coulomb: Compt. rend. acad. sc., Bd. 129, 1899.
- Behm: Ueber intrauterine Vaccination. Zentralbl. f. Gb. u. Gyn., Bd. 8, 1882.
- Belin: Compt. rend. soc. biol., Bd. 92, 1925.
- Böing: Volkmann, Sammlung klin. Vorträge, Nr. 744, 1919.
- Böing: Allg. med. Zentralztg. 1901.
- Bohn: Handbuch der Vaccination. Leipzig. Vogel, 1875.
- Bollinger: Ueber Menschen- u. Tierpocken, über den Ursprung der Tierpocken und über intrauterine Vaccination. Volkmanns Sammlung klin. Vorträge, Innere Medizin, 1878, Nr. 42, S. 1021.
- Bousquet: Schmidts Jahrb., 1825. Zit. nach Huguenin.
- Breger: Pocken u. Impfstattistik, Lentz u. Gins, Handbuch der Pockenbekämpfung und Impfung. Berlin, 1927.
- Burekhardt: Zur intrauterinen Vakzination. Deutsch. Arch. f. klin. Med., Bd. 24, 1879.
- Camus: Journ. de physiolog. et de pathol. génér. 1909 u. 1918.
- Camus: Bull. Acad. med. 1910, 1916, 1917, u. 1923.
- Camus: Compt. rend. soc. biol. Bd., 73, 1912. Bd. 79, 1916, Bd. 80, 1917.
- Camus: Compt. rend. acad. des sc. Bd. 163, 1916, Bd. 164, 1917.
- Camus: Presse méd. 1920.
- Carini: Vergleichende Untersuchungen über den Einfluss hoher Temperaturen auf die Virulenz trockener u. glycerinierter Kuhpockenlymphe. Zentralbl. f. Bakt., Abt. I, Orig. 1909, Bd. 41, S. 32.
- Defries: u. McKinnon: The effect of various hydrogen-ion concentration on the longevity of vaccine virus. Transactions of the Royal Society of Canada, Section V, 1926, p. 359.
- Douglas and Smith: Cataphoresis experiments with the virus of vaccinia. Brit. Journ.

- 一、定期種痘ノ回数増加。
- 二、定期種痘施行時期ノ増加。
- 三、種痘ノ禁忌ニ關スル條文ノ訂正。
- 四、第二期定期種痘善感標準ノ更改。
- 五、種痘事務整理方法ヲ今少シク簡單ニ且實際的ニ改ムルコト。
- 六、消毒方法ノ一部改正。

(丙) 法令ノ改正ヲ爲スコト

防グベシ、又屍體ノ處置ニハ特ニ注意シ、充分消毒シタル後ニテ搬出スルコト。

五、痘瘡患者ヲ傳染病院ニ收容シタルトキハ、病院内ノ職員患者、附添人ニハ勿論、病院ノ周圍少クトモ四、五町ノ間ニアル居住者ニハ速ニ種痘ヲ受ケシムルコト。

六、醫師ニ對シ痘瘡診斷ニ對スル注意ヲ喚起スルコト、就中麻疹、水痘、蕁麻疹、紫斑病、微毒性膿疱疹トノ鑑別ニ注意ヲ乞フコト。

七、大都會地ヨリ病毒ヲ四圍ニ蔓延セシムルコト多キニ依リ特ニ豫防ノ徹底ヲ期スルノ要アリ。

Bd. 4, 1897.

石島：日本小兒科學會演說、昭和四年四月

板澤：天然痘 = 關スル研究、大正十四年三月

Janson : Versuche zur Erlangung künstlicher Immunität bei Variola vaccina. Zentralbl. f. Bakt., Abt. I., Orig., Bd. 10, 1891.

城井、谷口：痘毒皮膚過敏反應、日本公衆保健協會雜誌、第二卷第六號、大正十五年六月

Kirstein : Deut. Med. Wochenschr., 1921.

Kirstein : Zeitschr. f. Hyg., Bd. 103, 1924.

Kisskalt u. Stoppenbrink : Zeitschr. f. Hyg., Bd. 90, 1920.

北里、梅野：牛痘苗 = 就テノ研究、細菌學雜誌、第六號、明治二十九年

Knoepfermacher : Aktive Immunisierung des Menschen mittels abgetöteter Pockenvakzine. Med. Klinik, 1910.

小代：種痘免疫 = 關スル臨床的研究、兒科雜誌、第二五四號、大正十年

小山田：痘瘡及ヒ種痘ノ免疫發生時期 = 就テ、日本傳染病學會雜誌、第三卷、第四號、昭和四年

Kraus u. Volk : Studien über Immunität gegen Variolavakzine. Sitzungsber. d. Akad. Wien, Mathem.-naturw. Kl., Bd. 116, 1907.

Kuhle : Ueber die Vakzineimmunität. Münch. Med. Wochenschr., 1924.

Kuhn : Gaz. med. de Strasbourg, 1855. Zit. nach Huguenin.

栗原、野口：大正七年並 = 大正九年東京 = 於ケル痘瘡感染者ト種痘ノ關係 = 就テ、東京市駒込病院第十四回報告、大正十一年三月

Lentz u. Gins : Handbuch der Pockenbekämpfung und Impfung. Berlin, 1927.

Lereboullet : Epid. de Strasbourg, 1836, Zit. nach Huguenin.

Loubie : Gaz. des hôpitaux, 1864. Zit. nach Huguenin.

Luriy : Monatsschr. f. Kinderheilk., Bd. 33, 1926.

Mac Combie : Discussion of smallpox and vaccination, Lancet, 1901, II, S. 1797.

Marson : Facts about smallpox and vaccination. Revised Edition, 1924, London. The Brit. Med. Association, S. 34.

Martin : Journ. Amer. Med. Association, Bd. 85, 1925.

Mayerhofer : Die Vakzination mit abgeschwächter Kuhpockenlymphe; Versuche mit

Exp. Path., 1928, Vol. IX, No. 4, p. 213.

Duclert : Compt. rend. soc. biol., 1896.

v. Einsiedel : Diskussionsbemerkung. Zentralbl. f. d. ges. Hyg., Bd. 2, S. 558, 1923.

v. Einsiedel : Med. Klinik, 1924.

v. Einsiedel : Zentralbl. f. d. ges. Hyg. Bd. 10, S. 773 u. 776, 1925.

Flinzer : Die Blatternepidemie in Chemnitz und Umgegend in den Jahren 1870 u. 1871.

Mitteilungen des statistischen Bureaus der Stadt Chemnitz. Erstes Heft. Chemnitz.

Forcø u. Beckwith : Journ. Amer. med. Association, Bd. 65, 1915.

Friedberger u. Yamamoto : Zur Desinfektion und experimentellen Therapie bei Vaccine.

Zentralbl. f. Bakt., 1909, Abt. II, Ref. Bd. 44, S. 81.

Gast : Schmidts Jahrb. d. Med., Bd. 183, 1879.

Gastinel : Des réactions d'infection et d'immunité dans la vaccine et la variole. Thèse, Paris, 1913.

Gins ; Ueber experimentelle vaccine und Vaccineimmunität. Zeitschr. f. Hyg., Bd. 82, 1916.

Goertler : Zeitschr. f. Imm., Bd. 38, 1923/24.

Gordon : Filter passing vaccinia and variola viruses. Brit. Med. Journ., 1925, II, p. 192.

Green : The resistance of the vaccine virus to filtration. Journ. of Hyg., 1914, Vol. 14, p. 182.

Groth : Immunisierungsversuche mit abgetöteter Variolavaccine. Zeitschr. f. Imm., Orig., Bd. 36, 1923.

濱田：第一期、第二期種痘ノ統計的觀察、日本傳染病學會雜誌、第三卷第一號、昭和三年

Hanna : Studies in smallpox and vaccination. Bristol, 1913.

Heerwagen : Ueber die Benutzung von Vaccine zur Prüfung der Wirksamkeit von Desinfektionsmitteln. Zeitschr. f. Hyg. 1893, Bd. 13, S. 387.

Henseval : La vaccination par injection de cow-pox chauffé. Compt. rend. soc. biol. Bd. 82, 1919.

Horgan : The virus of vaccinia. Brit. Med. Journ., 1925, II, p. 1226.

Huguenin : Pocken; Lubarsch u. Ostertag, Ergebnisse der allg. pathol. u. pathol. Anat.,

Roloff: Mitteil. a. d. tierärztl. Praxis im preuss. Staate, Jahrg. 21.
Sacco: Osservaz. pratiche sul uso del Variolo vaccin. Milano, 1801, und Trattato di vaccinazione, 1809. Zit. nach Huguenin.
重田: 天然痘消毒 = 關スル實驗的研究、實驗醫學雜誌、第十卷、第三號、大正十五年
重田: 種痘免疫 = 關スル實驗的研究、北海道醫學會雜誌、第四年第六號、第五年
第一號、昭和二年三月、五月
Sobernheim: Die neueren Anschauungen über das Wesen der Variola und Vakzineimmunität. Weichardts Ergebnisse d. Hyg., Bd. 7, 1925.
Süpfle: Die Vakzineimmunität. Arch. f. Hyg., Bd. 68, 1908.
鈴木、四宮、岩瀬: 痘毒接種 = ヨル皮膚異常反應 = 就テ、臺灣醫學會雜誌、第二五六號、大正十五年七月
Tanaka: Ueber die Untersuchung des Pockenerregers. Zentralbl. f. Bakt., Abt. I, Orig., Bd. 32, 1902.
Tedeschi: Ref., Zentralbl. f. Bakt., Bd. 31, 1902.
Teissier et Gastinel: Les réactions humorales dans la vaccine humaine ou expérimentale et dans la variole. Rev. internat. de la vaccine, Bd. 3, 1912/3.
Thursfield: The Lancet, 1871. Zit. nach Huguenin.
Tomarkin u. Serebrenikoff: Ueber die bakterienfeindlichen und konservierenden Eigenschaften einiger Aufbewahrungsmittel der animalen Lymphe mit besonderer Berücksichtigung der Aufbewahrung der Lymphe in den Tropen. Arch. f. Schiffs- u. Tropenhyg., 1910, S. 429.
Tomarkin und Suarez: Präzipitation und Thermopräzipitation bei Vakzine. Zeitschr. f. Imm., Orig., Bd. 29, 1917.
東京市役所衛生課調査: 明治四十、四十一年東京市内痘瘡患者表、明治四十一年十二月
友田: 天然痘既濟者 = 於ケル種痘成績、東京醫事新誌、第九四二號、明治二十九年
豐田: 痘瘡ノ研究、東京醫事新誌、第二三三三號、第二三三四號、第二三三六號
第二三三八號、大正十二年
Underhill: Brit. med. Journ., 1874.

der Quarzlampe. Zeitschr. f. Kinderhkl., 1916, Bd. 13, S. 361.
Mensching: Arch. f. Kinderheilk., Bd. 68, 1920.
Morawetz: Wien. Klin. Wochenschr., 1921, 1922.
Morawetz: Arch. f. Dermat. u. Syphilis. Bd. 142, 1923.
Müller: Die Vermischung der Schutzblatternlymphe mit Glycerin. Berlin. klin. Wochenschr., 1866, S. 135.
Murata: Beitrag zum Problem der Vaccineimmunität. Immunisierung mit abgetötetem Virus. Zeitschr. f. Imm., Orig., Bd. 40, 1924.
中川: 痘病原體煮沸免疫元 = ヨル家兎ノ全身性自働免疫、鳥洞免疫研究所業報、第二號、大正十二年七月
西川: 初生兒種痘 = 就テ、日本婦人科雜誌、第十四卷、第九號、大正八年
Nobl: Ueber das Schutzvermögen der subkutanen Vaccineinfektion. Wien. klin. Wochenschr., 1906.
太田: 種痘ノ免疫學的觀察、大阪醫學會雜誌、第十八卷、第三號、大正八年
太田原: 母體種痘 = ヨル胎兒ノ免疫 = 就テ、實驗醫學雜誌、第五卷、第五號、大正十年十二月
Palm: Beitrag zur Vakzination Schwangerer, Wöchnerinnen und Neugeborener. Arch. f. Gyn., Bd. 62, 1901.
Paschen: Ueber den Erreger der Variolavakzine. Immunitätsverhältnisse bei Variolavakzine. Kraus-Levaditi, Handb. d. Technik u. Methodik der Immunitätsforschung. 1911, I, Ergänzungsband, S. 465.
Peiper: Die Schutzpockenimpfung. Urban-Schwarzenborg. 1901.
Pfeiffer. Zeitschr. f. Hyg., Bd. 43, 1903.
Piéry: Lyon med., 1900.
v. Pirquet: Ist die vakzinale Frühreaktion spezifisch? Wien. klin. Wochenschr., Bd. 29, 1906.
v. Pirquet: Klinische Studien über Vakzination und vakzinale Allergie. Leipzig u. Wien; Deuticke, 1907.
v. Pirquet: Zeitschr. f. Imm., Orig. Bd. 10, 1911.
v. Prowazek: Zit. nach Sobernheim. Ergeb. d. Hyg., Bd. 7, 1925.
Rickert: Magazin f. d. ges. Tierheilkunde, Bd. 39, 1873.

Vetter : Arch. d. Heilk., 1810. Zit. nach Huguenin.

Voigt : Impfschutz und Variolavakzine. Deut. med. Wochenschr., 1898, S. 512.

de Waele u. Sugg : Experimentelle Untersuchungen über die Kuhpockenlymphe. Zentralbl. f. Bakt., Abt. I, Bd. 39, 1905.

v. Wasielewski : Beiträge zur Kenntnis des Vakzinerregers. Zeitschr. f. Hyg., 1901, Bd. 38, S. 212.

Wiokensack : Ein Beitrag zur intrauterinen Immunität. Inaug.-Diss. Göttingen, 1918.

Wolff : Virchows Arch., Bd. 105, 1886, Bd. 112. 1888.

Wurtz : Rev. d'hygiene, 1918.

山本 : 再種痘ニ就テ、大阪醫學會雜誌第十八卷、第十二號

矢追、笠井 : 牛痘毒ノ水素イオン濃度ニ對スル關係ニ就テ、日新醫學、第十五卷、第十二號、大正十五年

Zagari : L'ufficiale sanitario, 1897. Ref., Zentralbl. f. Bakt., Bd. 22, 1897.

Zöhrer : Die Vakzination. Wien, 1834. Zit. nach Huguenin.

昭和四年十一月二十一日印刷
昭和四年十一月二十五日發行

内務省衛生局

印刷者 西脇嘉市
東京市京橋區北横町九番地

印刷所 一成社
東京市京橋區北横町九番地

電話京橋八一三番

